


掲載号・キーワード・執筆者	内容
<p>その 9 (ニューズレター No.72 2013.03.22)            スマート・シュリンク(Smart Shrink)            執筆：猪八重拓郎 (豊田高専)</p>	<p>これまでの都市開発は、人口が増加するという前提のもと、市街地を拡大する方向で進められてきましたが、今後はこれまで投資してきた社会資本をいかに維持・管理し、長寿命化を図っていくかというアセットマネジメントの視点が必要になります。また、将来的には人口に対してこれまで広げてきた市街地が過大なものとなり、整備されてきた社会資本を維持することが困難になる可能性があります。そこで考えられているのがスマート・シュリンク (賢い都市撤退) です。その一つの方向性として、特に軌道系公共交通を軸に市街地を再構築し、軌道系交通から離れた市街地は緑地等に戻していくという考え方があります。しかしながら、この考え方は軌道系交通が社会基盤として整っていない場所では適用できません。また、効率性のみを追求して都市を撤退させると、地域の文化やコミュニティの継承という面から好ましくないという考え方もあります。</p> <p>佐賀低平地においては、特に都市間で地形的な境界が明確ではなく、都市が比較的低密度で広がり繋がっているため、将来に備えて佐賀低平地版の賢い都市撤退の在り方を考えておく必要があるのかもしれません。</p>
<p>その 10 (ニューズレター No.73 2013.6.14)            「Shared Space (シェアード・スペース、共有空間)」            執筆：清田勝 (佐賀大学・教授)</p> 	<p>佐賀と同様の低平地を持つオランダの Hans Mondeman が、「Shared Space」という奇抜な考え方を提唱しました。これは、「道路上の信号や標識類をなるべく撤去したうえで空間デザインに配慮し、最低限の交通ルールと人々のコミュニケーションによって歩車共存の空間に再構築する」というものです。従来とは全く逆の考え方で、様々な道路ユーザーが混在することでドライバーは安心して走行できなくなり、速度を落とさざるを得なくなるので、結果的に安全になるという考え方です。</p> <p>この概念を取り入れたオランダのハーレンでは事故件数が 39 件から 19 件に減少したことが報告されており、Shared Space 外では自動車の平均速度が 40km/h であるのに対して、Shared Space 内では 27km/h で走行しており、確かな減速効果が確認されています。さらに、速度の抑制や事故率の低下等の交通安全性の向上に加え、オープンカフェやイベントが行われるなど、魅力的空間の創出などの事例もあります。</p>

※執筆者の所属等はその当時のものです。